Japan Geoscience Union Meeting 2015
(May 24th - 28th at Makuhari, Chiba, Japan)
©2015. Japan Geoscience Union. All Rights Reserved.

SSS28-22 会場:A04 時間:5 月 28 日 15:00-15:15

富山県富山市中心市街地における呉羽山断層の地表トレースと最新活動
Surface trace and latest activities of the Kurehayama Fault through the urban area of Toyama City, north-central Ja

竹内 章 [1*] ; 山口 弘幸 [2]
TAKEUCHI, Akira[1*] ; YAMAGUCHI, Hiroyuki[2]

[1] 富山大学大学院理工学研究部, [2] 富山大学大学院理工学教育部
[1]Graduate School of Science and Engineering for Research, University of Toyama, [2]Graduate School of Science and Engineering for Education, University of Toyama

呉羽山断層帯は、富山市の都市部を縦断する活断層である。市街地で地形調査や地下の物理探査等を実施するには制約が多く、そのため、この断層トレースと活動年代については、まだ不明な点が多い。本研究では、近年、富山河川国道事務所が富山市粟島町付近国道 8 号線沿いの 5 地点（西側から T7、T8、T2、T3 および T9）で実施した地盤調査ボーリングの柱状図およびコア試料を用いた。コア観察および炭素同位体年代測定によって深度 50m までの層序断面図を作成・検討した。

地点 T7、T8、T2、T3 における更新世礫層の上限深度は、41.46m、41.18m、40.37m、41.74m と、大きく変わらないのに対し、地点 T9 では標高-40.08m と、T3 と T9 間において，礫層上端に 4.7m の標高差がある。この事実から、呉羽山断層のトレースは国道 8 号沿い地点 T3 と地点 T9 の間を通過すると考えられた。

層序断面図の検討から、9680calBC 以降、少なくともつぎの 2 回の断層変位が起こり、この間に累積変位量が 4.7m になったと推定された。まず、標高 0 m付近の年代測定から、4960calBC 前後以降 1360calBC 前後以前に 2.5m の変位が認められた。最新活動年代は、既往研究成果と総合して BC2285 以降 1360calBC 前後以前である。最新活動より 1 回前の断層運動は，9500calBC 前後以降－ 8380calBC 前後以前に起き，上下に 2.54m 変位した。上下変位は約 2.5 mであり、断層全体がこのすべりを生じた場合、モーメントマグニチュード 7.2 に相当する。さらに、9500calBC 前後以降、8380calBC 前後以前に最新活動の 1 回前の断層活動があり、上下に約 2.5m 変位した。したがって本断層の活動性は、活動間隔が約 7100 年であり，平均変位速度は 0.5 m/kyr となり B 級活断層である。

なお、本研究で推定した断層トレースに該当する変動地形として富山市豊田本町付近から豊若町にかけての段丘を切る低崖が認められるが、この地域の地形発達については，今後の課題として残された。

キーワード: 活断層, 逆断層, 呉羽山断層, 富山平野, 最新活動, 断層トレース
Keywords: active fault, reverse fault, Kurehayama Fault, Toyama Plain, latest activity, fault trace